

お 名 前	性 別	終戦時の年齢	現 住 所
花井美代子	女 性	20 歳	豊橋市 (新城市海老)

「終戦後は悲しいことばかり」

「東三河郷開拓団からの手紙」より
(部分修正)

私が満州の開拓団へ行くようになったのは、国のために満州国に東三河の分村を築くことが決まったからです。満州はまったく未知の遠い国でしたが、私たち一家は大きな夢と希望を持って開拓団に加わり、昭和16年2月11日に海老を出発しました。

16歳だった私は、考えられないようなはるかに遠くて山一つない広い満州の地に驚きました。終戦までは広い畑で日本の農業と同じように、大豆、とうもろこし、麦、野菜など作物の手入れ、家畜の世話などの手伝いをしながら馬に乗って広い野原を駆け回る楽しい生活でした。ところが、だんだん戦争が激しくなり、男の人たちに召集令状が来て、一人また一人と出征していきました。そして、とうとう終戦になりました。

終戦後は食糧もなくなり、ソ連兵、匪賊などで苦しみながらチチハルの収容所で1カ年を過ごしました。収容所での1年間の生活は本当に苦しい日々で、毎日のように栄養失調のため、お友達が次から次へと死んでいきました。私の兄弟も3人死んでしまいました。あまりにも悲しい出来事ばかりでしたので、とても詳しく書く気にはなれません。私はこの一年のうち、3ヶ月ほど満州人の家にお手伝いさんとして入りました。大変かわいがってもらいましたが、後はいろいろな仕事をしながら何とか生き延びて、やっとの思いで日本に戻ることになりました。昭和21年10月、なつかしい故郷海老に帰ることができました。

でも、まだ旧満州に残って生活してていいる人たちもおられます。中国との国交もできるようになり、残って暮らしている皆さんと墓参のため、昭和55年に東三河郷開拓団に行ってきました。私が住んでいた頃、親しくしていた満州人には会うことができませんでした。少しも変わっていなかったのは、広い畑と野原だけでした。

平成2年11月

(記録者 大林 誠さん)